



加古川・高砂地区C.O.患者守る会の作品。昨年11.9記念集会（自主的に開催）の際、壇上を飾った大パノラマ（約5畳敷大）。この決意に学び、命を守る闘いを発展させよう。



発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033 番
③3034 番
編集兼
発行人 益田 紀生
年間600円 送料共

明けましておめでと
うございませう。今年も
手を取り合って、前進
してまいります。

新春座談会

新しい七一年を

どう闘うか？



出席者（発言順）

波田次長（司会、本部）、宮川組合長（本部）、平田
憲二（宮浦仕繰）、宮崎勝（四山安全委員）、黒田榮
吉（港務鍛冶）、沖克太郎（三川坑外）、平川勝俊
（本所工作）——以上敬称略させて頂きました。

やってきた71年は

果してどんな年か

波田 私たちはここに新しい年——一九七一年を迎えて、何
がなんでも、これまで追及してき
ました命を守る闘いをさらに発展
させなければならない、という覚
悟を固めております。

それには何といっても、その土
台となるべき職場における闘いを
発展させなければならないわけ
です。

私たちは、労働者屈辱の日とし
て忘れることのできない三川鉱炭
じん大爆発を経験しましてから、
ちょうど七年目を迎えた昨年の十
一月を、とくに総点検・総行動月
間として統一行動を組みました。
各指導部ともたゞいま総括中
ですが、ここでも明らかに、まず職
場闘争を強めなければならないの
だ、という方向ができてきつある
ようです。

さて、七一年という新しい年を
三池労働組合としてどう闘っていく
か。このことを話し合っていただ

くわけですが、そのためにいま
宮川組合長から、一応の方向性
について語ってもらいたいと思いま
す。

政治の反動化 軍国主義復活

宮川 新しい年の大きな課
題の第一は「命を守る闘いを職場
でどう発展させていくか」という
ことです。

私たちの前にはいま、政府をし
て、C.O.患者に対し、労災補償と
して七級を認定させる問題があ
り、この問題を中心にこれからさ
らにC.O.闘争をおし進めていかな
ければならないわけですが、それ
をどうすすめていくかについて炭
労・総評・社会党との間に意志統
一もできてきた。

きたる三月ごろが闘いのヤマ場
になろうと思われませんが、そのヤ
マ場に向けるが、組合としては
あらゆる行動を積み重ね、力を集

中し、闘っていくなければならない
わけですが、

第二に、きたる統一地方選挙と
参議院議員選挙での勝利をめざす
闘いがあります。地域住民と手を
結んで選挙闘争をすすめる中で、
われわれ自身の政治意識を高めて
いく。

第三に、現在国の内外にきわた
ってきまされた政治の反動化傾向の
強まりと、軍国主義の復活があり
ます。これに対しては反対するば
かりでなく、私どもとしては、平
和と民主主義をいっそう強化する
ためにこそ闘わなければならない
わけですが、

昨年の「三島事件」でも想像で
きるように、わが国の右翼勢力と
してはかなりのすんだ準備をして
いるものと見るべきです。

昨年一部左翼の学生が山の中で
訓練中に逮捕されたことがありま
したが、それとまったく同じ目
に、右翼の一味もこれとまったく

同じ訓練をやっていた事実がその
後明らかになっていきます。このこ
とについて警察が知らんはずはな
いの、左翼学生は逮捕しなが
ら、ここの方は野放し。

「ま世間でよく「七二年、七二
年」といわれていますが、それを
ここの側がいつているばかりでな
く、独立資本・権力側がいつだ
してきているんです。

その「七二年」は、いったいど
んな意味をもっているのか。
そこでは必ず、資本主義が体制
を

三池の展望とは？

重要な第二組合対策

第二組合抜き の展望なし？

波田 全国にわたって、政
治の反動化・軍国主義の復活と闘
う戦線を構築しなければならない
ことが、組合長から明らかにされ
ましたが、その中で、わが国の労
働者の闘いのめききならぬ象徴
として、三池が位置づけられてい
る以上、私たちは格別の義務を負
っているといえるでしょう。

さて三池の労働者としてこの際
どう考えるかという点ですが？

的にもっている矛盾がさらに激化
していくに相違はなく、加えて沖
縄の祖国復帰問題が、いよいよ具
体的な内容を提起してくる時機で
もあります。すでにハッキリとで
てきていることですが、階級政変
をひっくるめて私どもの闘いがめ
ざしている方向を、何かなんでも
ね、まけてしまおうとする動き
も、実はそこらでできてくるわ
けです。

聞きますと、いまやわが国の右
翼は街の暴力団までも含め、これ
までバラバラになっていたものを
一つにする動きがでてくるそう
です。つまり団結しようとしている
のです。ということは体制側
は、こういう手段までとらない
と、内では憲法を愛護することがで
きず、外に向かつては思うような
再侵略に乗りだすことができな
い。

事実、三島事件は単なる事件と
して終わらず、日本の社会を暗黒
へと流している。
そのような体制側と闘う戦術を
どう構築するか。まず、全国の労
働者が決意を固め、生産点での闘
いを強めることを基本に据えて、
それを土台に地域闘争をまき起
し、闘いを発展させていかなけれ
ばならない、ということですよ。

平田 私としていまとにかく
知りたいことは、第二に、第二
組合員をわれわれの陣営に結集さ
せること。三池の展望は、第二組
合対策を抜きにしては考えられな
いことですから、そのためには、
第二に、職場闘争を強めることだ